

正安の碑

碑は寺域の奥、山上鞍部に建つ開山堂向って左側、大銀杏樹の下、歴代住職の卵塔墓碑群の中にある。

碑高一三四cmの川原石板碑で、一面の片平な四方に縁をとり、その中に蓮花座の上に梵字三つ、上は無量寿如来（阿弥陀仏）、下二つは勢至・観音菩薩で阿弥陀三尊仏を意味する。その下に正安三年（二三〇一）七月二十三日、左右に諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲楽、孝子敬白の二十字が陰刻されている。

この碑は真言宗時代、鎌倉時代末の本村唯一つの最古の板碑で、当時の信仰を知る貴重なものである。



〔余白利用写真〕

曹洞宗祖師源翁禪師塔
示現寺開山堂向って右歴代住職の墓域内